

第2章 農業振興計画の検証と課題

1 計画の検証

平成18年度から平成22年度までの5年間に実施した事業を施策ごとに検証（実績）しました。

(1) 魅力ある農業経営の確立

① 農業経営者の育成・確保

事業・施策	5年間の実績
認定農業者 制度の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○認定農業者31人（目標人数30人） （平成23年3月末現在） ○農業委員会だより「西の台地」に制度説明、認定農業者の紹介を掲載（平成17年度～） ○経営改善等を題材にした講演会の開催 （平成18年度～） ○利子補給制度の優遇対象者に認定農業者を追加 （平成20年度改訂） ○秋川及び五日市ファーマーズセンター内に、認定農業者名の名札を表示（平成21年度） ○認定農業者のPRのため、統一したステッカーを作成・配布（平成22年度）
農業後継者 の育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ○あきる野市農業振興会・後継者部に助成を継続 （平成15年度～） ○市広報に定年等就農セミナー（農業技術研修等）の募集記事を掲載（平成20年度～） ○フレッシュ&Uターン農業後継者セミナーに市内の後継者12人が参加（平成18年度～平成22年度）
新規就農者 の育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ○定年等就農者セミナーに、市内から25人が参加 （平成18年度～平成22年度） ○認定農業者等を対象に、「これからの農業を考える」を題材とした講演会を開催（平成19年度）
家族経営協定 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○農業委員会や認定農業者等を対象とした講演会等で制度のPR

② 生産物の流通・販売の拡充

事業・施策	5年間の実績
秋川、五日市ファーマーズセンターの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○会員数202人（平成22年3月31日現在） ○農業委員会で、農地取得者にファーマーズセンター加入の依頼（平成18年度～） ○東京都補助事業を導入し、端境期対策としてパイプハウス建設の助成（平成18年度～） ○秋川、五日市ファーマーズセンターの会員を対象に、パイプハウス設置希望調査を実施（希望者・7人・平成22年度） ○市、JAあきがわ、秋川ファーマーズセンター運営委員会で、先進地直売所（JA湘南・あさつゆ広場）を視察（平成22年度） ○秋川ファーマーズセンターの空調設備、植木コーナー出入口の自動ドア、トイレの洋式化工事を実施（平成22年度）
<p>温浴施設での販売の促進 (秋川溪谷瀬音の湯)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○他の直売所との差別化を図るために、土壌診断・ミネラル資材購入の助成（平成18年度） ○小宮・戸倉地域に適した野菜・山菜の栽培、パイプハウス栽培、残留農薬規制・生産日誌の講演会を開催（平成18年度～） ○ミネラル栽培に向けて、中嶋農法の先進地の視察、農業者に栽培指導等を実施（平成18年度～） ○女性グループ（あじさい・養沢布あそび）が、農産物加工品・手工芸品を販売（平成19年度～） ○パイプハウス設置（8人）の助成（平成19年度） ○品質管理委員会（出品物検査）を創設（平成21年度～）
新たな販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食へ納入される野菜の使用調査（平成20年度） ○市立保育園（神明・屋城）へ地元農産物の試行納入（平成21年度・2回）



直売所店内の様子



店頭に並ぶ「ダイコン」

(2) 安心して農業のできる生産環境整備

① 農地の利用促進

事業・施策	5年間の実績
農地の集約による 農業生産の拡大	○認定就農者（市外居住者）に、遊休化が懸念される引田地内の農地を幹旋（平成21年度）
低未利用地の解消	○緊急雇用事業で農地の実態調査を行い、遊休農地等75.3haを確認（不作付地・25.2ha、草・かん木地・32.6ha、森林化・17.5ha）（平成22年度） ○認定農業者、3直売所の会員を対象（260人）に「規模拡大等の意向調査」実施（平成22年度）
優良な農地の保全	○小庄堰の改修工事や小川久保、下代継などの水路の堆積土砂を排除（平成18年度～） ○農業委員会から「生産緑地の追加指定」の建議を行い、20,760㎡を追加指定（平成21年度） ○南郷及び一の谷前土地改良地区の農道舗装整備工事を実施（平成18・22年度） ○「あきる野市農業振興整備計画」の見直し（1本化）を実施（平成22年度） ○農道拡幅整備（軍道）に取り組んだが、所有者（一部）の合意形成が得られず休止（平成20年度）



市役所から望む「秋留台地」



「スイートコーン」畑

② 畜産環境対策

事業・施策	5年間の実績
たい肥生産プラントの推進	○たい肥生産プラント未整備の畜産農家に対して、建設希望を口頭確認（平成20年度）
畜舎の衛生管理	○薬剤購入の助成を継続（平成10年度～） ○東京都に、鳥インフルエンザの感染防止を図るため、既存鶏舎の施設改修（ネット張）を補助対象とするよう要請（平成20年度） ○東京都、市、畜産部合同で、畜舎の巡回指導を行ない畜舎の衛生管理に努めた。

③ 農作物被害防止対策の推進

事業・施策	5年間の実績
電気柵による被害防止対策	○東京都補助事業により電気柵設置を継続（平成9年度～） ○西部（旧五日市町）地域の獣害実態調査を継続（平成15年度～） ○イノシシ用の電気柵の購入と貸出しの実施（平成21年度～） ○東京都に既存電気柵の張替え助成の要請（平成22年度）
捕獲等による被害防止対策	○有害鳥獣の捕獲委託（五日市猟友会）を継続（平成7年度～） ○小動物を捕獲する「檻」の購入を継続（平成7年度～） ○「イノシシの習性・被害防止」のチラシを作成し、被害発生が多い4自治会（寺岡・落合・留原・菅生）に配布（平成20年度～）



獣害対策の農地



獣害対策用電気柵

④ 多面的機能の活用

事業・施策	5年間の実績
防災空間としての活用	○農業委員会（全員協議会）で、生産緑地を避難場所に指定することやハウスの使用についての意見交換を実施（平成20年度）
緑地空間としての啓発	○遊休農地や肥培管理不足の農地所有者に農業委員会で指導（通知・訪問）を実施



武蔵引田駅前の農地

(3) 新たな農業の切り拓き

① 安心・安全な農畜産物の供給

事業・施策	5年間の実績
環境に配慮した土づくり等の研究	○ごみ減量（ビニール）のため生分解マルチ購入の助成を創設（平成19年度～） ○羽村市（自然派やさい直売所ベジベジ）の特別栽培・エコファーマー栽培で収穫した野菜の販売体制についての情報収集（平成22年度） ○特別栽培2人、エコファーマー12人が認定（平成22年12月現在）
たい肥の利用促進	○市民等にPRするため、あきる野市産業祭で「たい肥」の無料配布を実施（平成18年度～）
生産履歴記録の提供の促進	○瀬音の湯「朝露」の会員を対象に、残留農薬規制・生産日誌記帳の説明会を開催（平成18年度） ○安全性の高い農産物を提供するため、秋川、五日市ファーマーズセンターで、「生産履歴管理・農薬適正使用システム」を導入（平成20年度～）

② ふれあい農業の推進

事業・施策	5年間の実績
市民農園の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○あきる野市産業祭で、市民農園コーナーを開設し、農作物展示・農園PRを実施（平成20年度～） ○市の広報に市民農園のPR記事を掲載（平成21年） ○新たに1農園を開園（17区画増）（平成22年度）
体験・観光農園の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○農業委員会・振興会後継者部会とで、練馬区の体験農園を視察（平成20年度） ○羽村市の体験農園の開設・運営方法等を視察（平成20年度） ○「ふるさと農園隊」が使用する農地や指導者を確保（平成20年度） ○港区民の森の活動に合わせて、収穫体験を地域農業者の協力で実施（平成21年度～）
援農ボランティア制度の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○市民農園利用者に指導員による栽培技術等の現地講習会を実施（平成15年度～） ○ボランティアの受入れ等について、秋川、五日市ファーマーズセンター、瀬音の湯「朝露」の会員（281人）を対象にアンケート調査を実施（多くの農家は草取りを希望・平成19年度）
グリーンツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○クラインガルデン野良坊の運営者（養沢センター）と農園利用について意見交換を実施（平成19年度） ○西多摩地方農業委員会で、奥多摩町のクラインガルデン（滞在型）を視察（平成20年度）



市民農園講習会の様子



「あきる農を知り隊」の収穫体験

③ 学校教育との連携

事業・施策	5年間の実績
学校農園等の推進	○市内の全小学校に学校農園の実態と今後の予定についての情報収集を実施（平成19年度）
食農教育の推進	○東秋留小学校（6年生）で、市職員による出張授業（あきる野の農業）を実施（平成20年度） ○農業委員会で愛媛県今治市の「食育について」の視察研修を実施（平成21年度） ○草花小学校（3年生）が草花の農家で「大根」の収穫体験をし、翌日、学校給食の「おでん」の食材として使用（平成21年度） ○市立保育園（神明・屋城）へ地元農産物の試行納入（2回）を実施（平成21年度） ○庁内の「食と栄養の連絡会」（健康課・学校給食課・児童課・農林課）で地元産の利用による食育に関する検討会に参加（H21年度～）



小学生による田植え

④ 特産品の検討

事業・施策	5年間の実績
ブランドの検討	○東京都の地域資源（農林産物）に、「東京しゃも・のらぼう菜・秋川牛・奥多摩やまめ」が指定（平成21年度）
農畜産物加工品の検討	○「東京しゃも・秋川牛」の肉を使ったレトルトカレーが秋川ファーマーズセンター等で販売（平成21・22年度～）